証券コード　3906
平成29年３月10日

株　主　各　位

東京都新宿区西新宿一丁目26番２号
株 式 会 社 ＡＬＢＥＲＴ
代表取締役社長　　上村　崇

第12回　定時株主総会招集ご通知

拝啓　平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。
　さて、当社第12回定時株主総会を下記により開催いたしますので、ご出席くださいますようご通知申し上げます。
**　なお、当日ご出席願えない場合には、書面によって議決権を行使することができますので、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討のうえ、同封の議決権行使書用紙に賛否をご表示いただき、平成29年３月28日（火曜日）午後７時までに到着するよう、ご送付いただきたくお願い申し上げます。**

敬具

記

１．日　　時　平成29年３月29日（水曜日）午前10時
（受付開始時刻は、午前９時30分を予定しております。）

２．場　　所　東京都新宿区西新宿一丁目26番２号
新宿野村ビル48階 コンファレンスプラザ
（末尾の会場案内図をご参照ください。）

３．株主総会の目的事項

報告事項

第12期（平成28年１月１日から平成28年12月31日まで）事業報告の内容報告及び計算書類報告の件

決議事項

第１号議案　取締役５名選任の件

第２号議案　定款一部変更の件

以上

本株主総会におきましては、おみやげの配布は予定しておりません。何卒ご理解のほど宜しくお願い申し上げます。

○当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。
また、資源節約のため、本招集ご通知をご持参くださいますようお願い申し上げます。
○招集通知添付書類ならびに株主総会参考書類の記載事項を修正する必要が生じた場合は、修正後の事項をインターネット上の当社ウェブサイト（http://www.albert2005.co.jp/）に掲載いたしますのでご了承ください。

（ 添付書類 ）

事 業 報 告

〔平成28年１月１日から
平成28年12月31日まで〕

１．会社の現況に関する事項

(1) 事業の経過及び成果

当事業年度における我が国経済は、新興国を中心とした経済成長の減速に加え、英国のEU離脱問題、米国の大統領選挙などによる為替の乱高下が生じ、経済・金融市場に混乱が広がり、先行きの不透明な状態となりました。

また社会面では、少子高齢化に伴う労働人口の減少、地域格差、グローバル化が進む中で、これらの課題に対しITの活用により、社会・コミュニティ・企業・一人一人の生産性の向上を図り、問題解決に取り組んでいく必要に迫られております。

このような事業環境のもと、平成28年12月期より事業セグメントを「データソリューション事業」へと改訂、AI（人工知能）やIoT（モノのインターネット）領域への本格参入ならびに事業拡大を視野に入れ、積極的な研究開発と人材投資を推進して参りました。

具体的には、平成28年９月にデータを自動学習して最適な施策を実行するマーケティングオートメーションツール（MAツール）「rAprog（ラプログ）」を、平成28年12月に人工知能・機械学習技術を駆使するチャットボット型接客ツール「Proactive AI（プロアクティブ エーアイ）」をそれぞれリリースする等、AI、ディープラーニング等を活用した製品・サービスの開発に注力して参りました。

当社の扱う技術領域、特にAIに関する技術は、自動運転車開発、ドローン、IoT、Fintech（IT技術を使った新たな金融サービス）等、今後産業分野での拡大が見込まれております。

当事業分野におきましては、国内にとどまらず、世界的な開発競争が激化してきている状況で、技術開発に投下される金額は拡大傾向にあり、開発のスピードも増してきております。

当社は、平成28年12月８日を払込日とする「第１回無担保転換社債型新株予約権付社債」の割当を株式会社ウィズ・パートナーズが業務執行組合員を務めるウィズ・アジア・エボリューション・ファンド投資事業有限責任組合に対して行い、2,409,890千円の資金調達を実施し、今後の継続的な高成長に向けて、事業投資を積極的に行っていく環境の構築を行って参りました。

一方、業績面につきましては、大型システムソリューションの受注件数が想定を下回ったこと、アナリティクスコンサルティング事業において受注時期がずれ込む

ことによる機会損失の発生などにより低調に推移する結果となりました。

以上の結果、当事業年度における売上高は812,833千円（前年同期比146,482千円減）、営業損失107,484千円（前事業年度は営業損失33,949千円）、経常損失121,029千円（前事業年度は経常損失43,500千円、当期純損失279,345千円（前事業年度は当期純損失185,370千円となりました。

なお、当社はデータソリューション事業の単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

(2) 設備投資の状況

該当事項はありません。

(3) 資金調達の状況

当社は、平成28年11月21日開催の取締役会において決議いたしました第１回無担保転換社債型新株予約権付社債（以下、「本予約権付社債」という。）を発行し、平成28年12月８日に割当先であるウィズ・アジア・エボリューション・ファンド投資事業有限責任組合から、本予約権付社債の全額2,409,890千円の払込みを完了しております。

また、第２、７、10、11回新株予約権の行使による払込みを受けたことから、新規で7,400株の株式発行を行いました。これにより1,570千円の払込みを完了しております。

(4) 事業の譲渡、吸収分割または新設分割の状況

該当事項はありません。

(5) 他の会社の事業の譲受けの状況

該当事項はありません。

(6) 吸収合併または吸収分割による他の法人等の事業に関する権利義務の承継の状況

該当事項はありません。

(7) 他の会社の株式その他の持分または新株予約権の取得または処分の状況

該当事項はありません。

(8) 財産及び損益の状況の推移

区　　分	第９期 平成25年12月期	第10期 平成26年12月期	第11期 平成27年12月期	第12期 平成28年12月期 (当事業年度)
売上高　（千円）	647,734	918,547	959,315	812,833
経常利益又は経常損失(△)　（千円）	53,107	161,100	△43,500	△121,029
当期純利益又は当期純損失(△)　（千円）	94,365	167,215	△185,370	△279,345
１株当たり当期純利益又は １株当たり当期純損失(△)　（円）	51.56	91.37	△90.48	△128.33
総資産　（千円）	336,387	578,659	973,170	3,152,521
純資産　（千円）	221,467	388,682	857,420	823,995
１株当たり純資産額　（円）	121.02	212.39	394.85	345.66

（注）記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

(9) 対処すべき課題

当社は、以下の対処すべき課題に積極的に取り組む方針であります。

① クロスセルの推進

当社のサービスを既にご利用いただいているユーザの皆様には、複数のサービスを相互に利用していただけるようにクロスセル提案体制を強化し、データサイエンスのトータルソリューションの事業領域における提案力を高めて参ります。また新規ユーザ獲得のため、展示会やセミナーの継続的な開催及び出展、WebサイトやFacebook等のSNSを活用した情報発信、提携企業との更なる連携強化などに取り組んで参ります。

② ブランド形成への取組み

当社が提供する「smarticA!DMP」は、大手企業を中心に引き合いが増えており、その製品力が業界内で高い評価を得ております。CRM広告の双方をカバーしたDMPであることや、具体的で幅広い分析事例を豊富に持ち、運用が見えるシナリオ提案、継続的なチューニング・カスタマイズ体制を整えていることなど、他社には無い差別化要因が多数あります。競争優位性を維持していくためには更なる機能向上など製品開発を行っていく必要があるため、ブランド形成に向けて継続的に取り組んで参ります。

③　プロジェクト管理

業容拡大に伴い、案件単位において受注単価増大及び長期化の傾向があり、業務推進体制がより複雑化しています。このような状況のもと、各プロジェクトごとの作業工数をより正確にリアルタイムで把握できるようなシステムの構築などにより工程管理を一層強化し、業務効率化を図っていくことが重要であると考えております。サービス品質の向上にも同時に取り組むとともに、コストを削減し、業務稼働率を一層向上させる施策を全社的に推進してまいります。

④　情報管理体制の強化

デジタル化の進展に伴い、企業がパーソナルデータを含む様々な匿名データを直接・間接に入手できるようになり、自社が保有する顧客の実名データと紐づけることで、顧客の属性・行動を網羅的に把握し、精度の高い顧客分析や、ターゲットの抽出、マーケティングROI（投資対効果）測定などへの広範な活用が可能となりました。当社はこれらの支援を行うことを主力事業としており、顧客から分析データを預って業務を請負うときのデータ保護には細心の注意を払っておりますが、更なる情報管理体制の運用強化を図っていくことが重要と考えております。

⑤　人材・組織体制

当社は、今後の成長のためには優秀な人材確保と教育体制の充実による継続的な人材育成が不可欠であると認識しております。企業理念においても「会社にとって一番大切なのは社員」であることを掲げ、各人の力を最大限に引き出すことによりそれを組織力に変えていくことが企業価値向上に繋がると考えます。成長フェーズに合った評価制度をしっかり運用するとともに、役員及び従業員の自立性を高め、常に最適な組織体制を模索していく方針であります。

⑥ 次世代サービスの開発

近年のIoTや人工知能に対する関心の高まりに象徴されるように、データ分析関連事業は今後ますます市場の成長が見込まれます。今後の課題として、市場のニーズに合った、導入後はライセンスフィー、および運用フィーでストック型の収益を得ることが可能な新規サービスの開発を継続的に行い、中期成長を視野に入れた事業の収益性向上を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(10) 重要な親会社及び子会社の状況

該当事項はありません。

(11) 主要な事業内容

当社は、「分析力」をコアコンピタンスとして、プライベートDMP（smarticA!DMP）の構築・提供、各種アナリティクスコンサルティングなど、データソリューション事業を展開しております。

(12) 主要な営業所

名　称	所　在　地
本社	東京都新宿区西新宿一丁目26番２号

(13) 従業員の状況

使用人数	前事業年度末比増減	平均年齢	平均勤続年数
68名	13名増	34.2歳	1.9年

(14) 主要な借入先の状況

該当事項はありません。

(15) その他会社の現況に関する重要な事項

該当事項はありません。

２．会社の現況

(1) 株式の状況 （平成28年12月31日現在）

① 発行可能株式総数　5,000,000株

② 発行済株式の総数　2,377,900株

（注）発行済株式の総数は、第１回無担保転換社債型新株予約権付社債の株式転換199,000株、新株予約権の行使7,400株により、206,400株が増加しております。

③ 株主数　2,545名

④ 大株主（上位10名）

株主名	持株数	持株比率
山川　義介	291,900 株	12.2 %
デジタル・アドバタイジング・コンソーシアム株式会社	288,800	12.1
ウィズ・アジア・エボリューションファンド投資事業有限責任組合	199,000	8.3
上村　崇	152,800	6.4
山川　奈緒子	50,300	2.1
株式会社SBI証券	42,600	1.7
新井　計男	37,700	1.5
鈴木　俊明	36,700	1.5
佐藤　めぐみ	35,000	1.4
新井　郁子	31,000	1.3

(2) 新株予約権等の状況 （平成28年12月31日現在）

① 当社役員が有する職務執行の対価として交付された新株予約権等の内容の概要

		第９回新株予約権
発行決議日		平成24年4月13日
新株予約権の数		725個
新株予約権の目的となる株式の種類と数		普通株式　72,500株 （新株予約権1個につき100株）
新株予約権の払込金額		新株予約権と引換えに払い込みは要しない
新株予約権の行使に際して出資される財産の価額		200円
権利行使期間		平成26年4月14日から 平成34年4月13日まで
行使の条件		（注）
役員の保有状況	取締役 （社外取締役を除く）	新株予約権の数　702個 目的となる株式数　70,200株 保有者数　1名
	社外取締役	新株予約権の数　―個 目的となる株式数　―株 保有者数　―名
	監査役	新株予約権の数　23個 目的となる株式数　2,300株 保有者数　1名

（注） 権利行使時において当社の取締役、監査役及び従業員の地位にあることを要する。その他の条件については新株予約権者と締結する「新株予約権割当契約書」による。

		第12回新株予約権
発行決議日		平成25年12月17日
新株予約権の数		375個
新株予約権の目的となる株式の種類と数		普通株式　37,500株 （新株予約権1個につき100株）
新株予約権の払込金額		新株予約権と引換えに払い込みは要しない
新株予約権の行使に際して出資される財産の価額		200円
権利行使期間		平成27年12月18日から 平成35年12月17日まで
行使の条件		（注）
役員の保有状況	取締役 （社外取締役を除く）	新株予約権の数　375個 目的となる株式数　37,500株 保有者数　1名
	社外取締役	新株予約権の数　―個 目的となる株式数　―株 保有者数　―名
	監査役	新株予約権の数　―個 目的となる株式数　―株 保有者数　―名

（注）　権利行使時において当社の取締役、監査役及び従業員の地位にあることを要する。その他の条件については新株予約権者と締結する「新株予約権割当契約書」による。

		第13回新株予約権
発行決議日		平成28年1月29日
新株予約権の数		1,200個
新株予約権の目的となる株式の種類と数		普通株式　120,000株 （新株予約権1個につき100株）
新株予約権の払込金額		新株予約権１個当たり1,200円 （新株予約権の目的である株式１株当たり12円）
新株予約権の行使に際して出資される財産の価額		新株予約権１個当たり171,500円 （新株予約権の目的である株式１株当たり1,715円）
権利行使期間		平成30年4月1日から 平成36年2月18日まで
行使の条件		（注）
役員の保有状況	取締役 （社外取締役を除く）	新株予約権の数　1,200個 目的となる株式数　120,000株 保有者数　１名
	社外取締役	新株予約権の数　―個 目的となる株式数　―株 保有者数　―名
	監査役	新株予約権の数　―個 目的となる株式数　―株 保有者数　―名

（注）　権利行使時において当社の取締役、監査役及び従業員の地位にあることを要する。その他の条件については新株予約権者と締結する「新株予約権割当契約書」による。

② 当事業年度中に当社使用人等に対して職務執行の対価として交付された新株予約権の内容の概要

	第13回新株予約権
発行決議日	平成28年1月29日
新株予約権の数	600個
交付された者の人数	当社使用人６名
新株予約権の目的となる株式の種類と数	普通株式　60,000株 （新株予約権1個につき100株）
新株予約権の払込金額	新株予約権１個当たり1,200円 （新株予約権の目的である株式１株当たり12円）
新株予約権の行使に際して出資される財産の価額	新株予約権１個当たり171,500円 （新株予約権の目的である株式１株当たり1,715円）
権利行使期間	平成30年4月1日から 平成36年2月18日まで
行使の条件	（注）

（注） 権利行使時において当社の取締役、監査役及び従業員の地位にあることを要する。その他の条件については新株予約権者と締結する「新株予約権割当契約書」による。

③ その他新株予約権等に関する重要な事項

	第１回無担保転換社債型新株予約権付社債
発行日	平成28年12月８日
新株予約権の数	36個
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数	1,791,000株
転換価格	1,211円
新株予約権の行使期間	平成28年12月８日から平成31年12月26日
新株予約権付社債の残高	2,168,901千円

３．会社役員に関する事項

(1) 取締役及び監査役の状況（平成28年12月31日現在）

地　　位	氏　　名	担当及び重要な兼職の状況
取締役社長（代表取締役）	上村　　崇	
取締役	渡邊　敦彦	株式会社ファインドスター 代表取締役社長
取締役	古田　利雄	弁護士法人クレア法律事務所 代表弁護士
常勤監査役	谷本　篤彦	
監査役	保月　英機	
監査役	江南　清司	

（注）１．取締役 古田利雄氏は、平成28年３月29日付で取締役に就任いたしました。
２．取締役 山川義介氏は、平成28年３月29日開催の定時株主総会終結のときをもって任期満了により退任いたしました。
３．渡邊敦彦氏及び古田利雄氏は、社外取締役であります。なお、渡邊敦彦氏は東京証券取引所の定める一般株主と利益相反が生じるおそれのない独立役員であります。
４．谷本篤彦氏及び江南清司氏は、社外監査役であります。なお、両氏は東京証券取引所の定める一般株主と利益相反が生じるおそれのない独立役員であります。
５．取締役古田利雄氏は、弁護士としてまた弁護士法人の代表としていずれも豊富な経験を通じ、その高い専門性と幅広い知見を有しております。
６．監査役江南清司氏は、上場企業における経理・財務・会計業務等に関する豊富な経験を通じ、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。

(2) 取締役及び監査役の報酬等の総額

区　　分	人　　数	報酬等の総額
取締役（うち社外取締役）	４名（２名）	37,350千円（3,450千円）
監査役（うち社外監査役）	３名（２名）	8,400千円（2,400千円）
合　計	７名（４名）	45,750千円（5,850千円）

（注）１．取締役の報酬額には、使用人兼務取締役の使用人給与は含まれておりません。
２．取締役の報酬限度額は、平成26年10月15日開催の臨時株主総会において年額200百万円以内（ただし、使用人を含まない。）と決議いただいております。
３．監査役の報酬限度額は、平成26年10月15日開催の臨時株主総会において年額30百万円以内と決議いただいております。

(3) 社外役員に関する事項

① 重要な兼職先と当社との関係

取締役渡邊敦彦氏は、株式会社ファインドスターの代表取締役社長を務めております。同社と当社との間には重要な取引等の特別な関係はございません。

② 他の法人等の社外役員の兼任状況

取締役古田利雄氏は、弁護士法人クレア法律事務所の代表、株式会社トランザクションの社外取締役、ナノキャリア株式会社、株式会社キャンバス、ネットイヤーグループ株式会社の社外監査役を兼務しておりますが、同法人及び同社と当社の間には重要な取引等の特別な関係はございません。

③ 当期における主な活動状況

区分	氏名	主な活動状況
社外取締役	渡邊　敦彦	当期開催の取締役会23回のすべてに出席し、取締役会の意思決定の妥当性、適正性を確保するための助言、発言を行い、また、財務及び会計に関する事項についても必要な発言を適宜行っております。
社外取締役	古田　利雄	当期に開催の取締役会23回のうち17回（取締役就任後の全回）に出席しており、取締役会の意思決定の妥当性、適正性を確保するための助言・発言を行い、また、適法性に関しても弁護士の見地から必要な発言を適宜行っております。
社外監査役	谷本　篤彦	当期開催の取締役会23回のすべてに出席し、取締役会の意思決定の妥当性、適正性を確保するための助言、発言を行い、また、財務及び会計に関する事項についても必要な発言を適宜行っております。 また、当期開催の監査役会14回のすべてに出席し、監査結果についての意見交換、監査に関する重要事項の協議等を行っております。
社外監査役	江南　清司	当期開催の取締役会23回のすべてに出席し、取締役会の意思決定の妥当性、適正性を確保するための助言、発言を行い、また、財務及び会計に関する事項についても必要な発言を適宜行っております。 また、当期開催の監査役会14回のすべてに出席し、監査結果についての意見交換、監査に関する重要事項の協議等を行っております。

④ 責任限定契約の内容の概要

当社は、会社法第427条第１項の規定により、各社外取締役及び各社外監査役との間に、会社法第423条第１項の任務を怠ったことによる損害賠償責任を限定する契約を締結しており、当該契約に基づく責任の限度額は、法令の定める最低責任限度額であります。

４．会計監査人に関する事項

(1) 名称

有限責任 あずさ監査法人

（注）当社の会計監査人であった新日本有限責任監査法人は平成28年３月29日開催の第11回定時株主総会の終結の時をもって任期満了により退任いたしました。

(2) 報酬等の額

	報酬等の額
①当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額	18,000千円
②当社が会計監査人に支払うべき金銭及びその他財産上の利益の合計額	18,000千円

（注）１．当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、①の報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。

２．監査役会は、日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の手続き・体制等について確認し、検討した結果、会計監査人の報酬等につき、会社法第399条第１項の同意を行っております。

(3) 非監査業務の内容

該当事項はありません。

(4) 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

監査役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、会計監査人の解任又は不再任に関する議案を決定し、取締役会は、当該決定に基づき、当該議案を株主総会に提出いたします。

また、監査役会は、会計監査人が会社法第340条第１項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき監査役会が、会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

５．業務の適正を確保するための体制

取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他会社の業務の適正を確保するための体制についての決定内容の概要は以下のとおりであります。

(1) 取締役、使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

①法令・定款及び社会規範を遵守するための「ALBERT行動規範」を制定し、全社に周知・徹底します。

②コンプライアンスに係る規程を制定するとともに、コンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンス体制の構築・維持にあたります。

③コンプライアンスに関する教育・研修を適宜開催し、コンプライアンス意識の維持・向上を図ります。

④内部通報制度を設け、問題の早期発見・未然防止を図り、適切かつ迅速に対応します。

⑤当社は、健全な会社経営のため、反社会的勢力とは決して関わりを持たず、また不当な要求には断固としてこれを拒絶します。

(2) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

①取締役の職務の執行に係る情報については、法令及び情報管理規程等に基づき、適正に保存及び管理を行ないます。

②取締役及び監査役は、これらの文書等を、常時閲覧できるものとします。

(3) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社は、取締役会がリスク管理体制を構築する責任と権限を有し、事業活動における各種リスクに対する予防・軽減体制の強化を図ります。これに従いリスク管理にかかる「リスク管理マニュアル」を制定し、会社の事業活動において想定される各種リスクに対応する組織、責任者を定め、適切に評価・管理体制を構築します。危機発生時には、対策本部等を設置し、社内外への適切な情報伝達を含め、当該危機に対して適切かつ迅速に対処するものとします。

(4) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

①取締役会の意思決定機能及び業務監督機能と、執行役員の業務執行機能を分離します。

②取締役会規程、業務分掌規程、職務権限規程を定め、取締役の職務及び権限、責任の明確化を図るとともに、事業運営の迅速化を図ります。

③取締役会を23回開催するほか、必要に応じて適宜開催します。

⑸ 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項及びその使用人の取締役からの独立性に関する事項

①当面、監査役スタッフは置かないものの、業務監査及び日常業務については経営管理部の補助を受けるものとします。

②また将来監査役スタッフが求められた場合、会社は監査役会と協議の上その人選を行うものとします。

⑹ 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制その他監査役への報告に関する体制

①監査役は、取締役会のほか執行役員会議等重要な会議に出席し、取締役及び使用人から職務の執行状況の報告を求めることができるものとします。

②取締役及び使用人は、法令に違反する事実、会社に著しい損害を与えるおそれのある事実を発見したときには、速やかに監査役に報告するものとします。

③取締役及び使用人は、監査役からの業務執行に関する事項の報告を求められた場合には、速やかに報告するものとします。

⑺ その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

①監査役会には、法令に従い、社外監査役を含み、公正かつ透明性を担保します。

②監査役は、代表取締役と定期的に意見交換を行い、相互の意思疎通を図ります。

③監査役は、会計監査人及び内部監査部門と定期的に情報交換を行い、相互の連携を図ります。

⑻ 財務報告の信頼性を確保するための体制

財務報告の信頼性確保のため、代表取締役社長を筆頭として、財務報告の適正を確保するため、全社的な統制活動及び各業務プロセスの統制活動を強化し、その運用体制を構築します。

⑼ 反社会的勢力との取引排除に向けた基本的考え方及びその整備状況

当社は、「ALBERT行動規範」において、健全な会社経営のため、反社会的勢力とは決して関わりを持たず、また不当な要求には断固としてこれを拒絶することを宣言しております。

上記業務の適正を確保するための体制の運用状況の概況は以下のとおりであります。

①取締役会規程、業務分掌規程、職務権限規程に基づき、取締役が法令ならびに定款に則って行動するよう徹底しております。当該事業年度において取締役会を23回開催しております。

②監査役は、監査役会において定めた監査計画に基づき監査を実施するとともに、取締役会への出席や代表取締役、会計監査人及び内部監査人との間で定期的に情報交換等を行なうことで、取締役の職務執行の監査、内部統制の整備ならびに運用状況を確認しております。

③「ALBERT行動規範」に基づき、取締役及び使用人が法令及び定款に則って行動するよう徹底しております。また、内部監査人によるモニタリングを通じ、法令義務違反が発生した場合または発生する恐れのある場合は厳格な調査を行ない、客観的な事実関係を見極め、適切な処理方法を選択するとともに、再発防止を図っております。

貸 借 対 照 表

（平成28年12月31日現在）

（単位：千円）

科　目	金　額	科　目	金　額
（資 産 の 部）		（負 債 の 部）	
流動資産	**3,023,558**	**流動負債**	**145,720**
現金及び預金	2,835,812	買掛金	5,381
受取手形	1,323	未払金	31,355
売掛金	123,867	未払費用	43,046
仕掛品	6,275	未払法人税等	5,998
前渡金	42,475	未払消費税等	16,083
前払費用	13,847	前受金	1,270
その他	18	預り金	5,699
貸倒引当金	△62	賞与引当金	36,883
		固定負債	**2,182,805**
固定資産	**128,963**	新株予約権付社債	2,168,901
有形固定資産	－	繰延税金負債	1,053
建物	－	有給休暇引当金	12,851
工具、器具及び備品	－	**負債合計**	**2,328,525**
無形固定資産	－	（純資産の部）	
商標権	－	**株主資本**	**820,634**
ソフトウエア	－	**資本金**	**787,333**
ソフトウエア仮勘定	－	**資本剰余金**	**448,333**
		資本準備金	448,333
		利益剰余金	**△415,033**
投資その他の資産	**128,963**	その他利益剰余金	△415,033
投資有価証券	73,869	繰越利益剰余金	△415,033
敷金及び保証金	48,958	**評価・換算差額等**	**1,321**
保険積立金	5,407	その他有価証券評価差額金	1,321
長期前払費用	728	**新株予約権**	**2,040**
		純資産合計	**823,995**
資産合計	**3,152,521**	**負債・純資産合計**	**3,152,521**

（注） 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

損 益 計 算 書

〔平成28年１月１日から
平成28年12月31日まで〕

（単位：千円）

科目	金	額
売上高		**812,833**
売上原価		**367,103**
売上総利益		**445,729**
販売費及び一般管理費		553,214
営業損失		**107,484**
営業外収益		
受取利息	172	
講演料等収入	55	
保険解約返戻金	814	
その他	26	1,068
営業外費用		
支払利息	81	
為替差損	1,368	
社債発行費	11,422	
株式交付費	1,291	
投資事業組合運用損	448	14,613
経常損失		**121,029**
特別利益		
投資有価証券売却益	25,399	
新株予約権戻入益	120	**25,519**
特別損失		
減損損失	172,507	
投資有価証券評価損	9,150	**181,657**
税引前当期純損失		**277,167**
法人税、住民税及び事業税	2,178	2,178
当期純損失		**279,345**

（注） 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

株主資本等変動計算書

〔平成28年１月１日から
平成28年12月31日まで〕

（単位：千円）

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		株主資本合計
		資本準備金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計	
平成28年１月１日残高	666,054	327,054	327,054	△135,687	△135,687	857,420
事業年度中の変動額						
新株の発行（新株予約権の行使）	121,279	121,279	121,279			242,559
当期純損失				△279,345	△279,345	△279,345
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）						
事業年度中の変動額合計	121,279	121,279	121,279	△279,345	△279,345	△36,786
平成28年12月31日残高	787,333	448,333	448,333	△415,033	△415,033	820,634

	評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計		
平成28年１月１日残高	－	－	－	857,420
事業年度中の変動額				
新株の発行（新株予約権の行使）				242,559
当期純損失				△279,345
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,321	1,321	2,040	3,361
事業年度中の変動額合計	1,321	1,321	2,040	△33,425
平成28年12月31日残高	1,321	1,321	2,040	823,995

（注）　記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

個　別　注　記　表

１．重要な会計方針に係る事項に関する注記

（１）有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

主として移動平均法による原価法を採用しております。

なお、投資事業組合への出資（金融商品取引法第２条第２項により有価証券とみなされるもの）については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

（２）たな卸資産の評価基準及び評価方法

仕掛品

個別法による原価法を採用しております。

（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

（３）固定資産の減価償却の方法

①有形固定資産

定率法を採用しております。

ただし、建物（建物附属設備を除く）並びに平成28年4月以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しております。

②無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウエアについては、社内における利用可能期間（５年以内）に基づいております。

（４）引当金の計上基準

①貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

②賞与引当金
従業員の賞与支給に備えるため、賞与支給見込額のうち、当事業年度に負担すべき金額を計上しております。
③有給休暇引当金
法定外有給休暇の買取りに伴う支出に備えるため、将来買取りが必要と見込まれる額を有給休暇引当金として計上しております。

（追加情報）
当事業年度より、法定外有給休暇の買取りに伴う支出に備えるため、将来買取りが必要と見込まれる額を有給休暇引当金として計上しております。従来、従業員の法定外有給休暇の買取りに伴う支出については従業員からの買取り申請時に費用として処理しておりましたが、従業員数が増加してきたことによりその重要性が増してきたことから有給休暇引当金を当事業年度より計上することといたしました。

（５）収益及び費用の計上基準
受注制作のソフトウエアにかかる売上高及び売上原価の計上基準
①当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められるソフトウエア制作
工事進行基準（契約の進捗率の見積りは原価比例法）
②その他のソフトウエア制作
工事完成基準

（６）消費税等の会計処理方法
消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

（７）繰延資産の処理方法
社債発行費は、支出時に全額費用として処理しております。

２．会計方針の変更に関する注記
法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号　平成28年６月17日）を当事業年度から適用し、平成28年４月１日以後に取得する建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

３．表示方法の変更に関する注記

前事業年度において、流動資産の「その他」に含めておりました「前渡金」については、重要性が増したため、当事業年度より流動資産に区分掲記しております。

４．貸借対照表に関する注記

有形固定資産の減価償却累計額　　18,198千円

５．損益計算書に関する注記

（１）一般管理費に含まれる研究開発費　　25,129千円

（２）減損損失に関する事項

当社は以下の資産について減損損失を計上しました。

用途	種類	場所	減損損失額（千円）
全社資産	建物	東京都新宿区	30,330
	工具、器具及び備品	東京都新宿区	17,824
	商標権	東京都新宿区	414
	ソフトウエア	東京都新宿区	8,451
	敷金及び保証金	東京都新宿区	6,147
事業用資産	ソフトウエア	東京都新宿区	84,134
	ソフトウエア仮勘定	東京都新宿区	25,205
合　　計			172,507

当社は、原則として使用資産については全体でひとつの資産グループとしており、将来の使用が見込まれていない遊休資産については個々の物件単位でグルーピングを行っております。また、本社設備については共有資産としております。

当社は、継続的に営業損失を計上しており、かつ、将来キャッシュ・フローの見積り総額が各資産の帳簿価額を下回る資産について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として認識しております。

なお、回収可能価額として使用価値を用いておりますが、将来キャッシュ・フローがマイナスであると見込まれるため、使用価値は零としております。

６．株主資本等変動計算書に関する注記

（１）発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首株式数	当事業年度増加株式数	当事業年度減少株式数	当事業年度末株式数
普通株式	2,171,500株	206,400株	―株	2,377,900株

（注）発行済株式の総数は、新株予約権の行使により、増加しております。

（２）自己株式に関する事項

該当事項はありません。

（３）新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

新株予約権の内訳	新株予約権の目的となる株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数（株）				当事業年度末残高（千円）
		当事業年度期首	当事業年度増加	当事業年度減少	当事業年度末	
第２回新株予約権	普通株式	5,300	―	3,700	1,600	―
第７回新株予約権	普通株式	500	―	300	200	―
第９回新株予約権	普通株式	105,000	―	32,500	72,500	―
第10回新株予約権	普通株式	8,700	―	4,400	4,300	―
第11回新株予約権	普通株式	1,200	―	600	600	―
第12回新株予約権	普通株式	46,100	―	5,500	40,600	―
第13回新株予約権	普通株式	―	180,000	10,000	170,000	2,040
第１回無担保転換社債型新株予約権付社債	普通株式	―	1,990,000	199,000	1,791,000	―
合　計		166,800	2,170,000	256,000	2,080,800	2,040

（注）転換社債型新株予約権付社債については、一括法によっております。

１．第２回から第13回新株予約権の減少57,000株は、権利行使による減少7,400株及び消却による減少49,600株であります。

２．第１回無担保転換社債型新株予約権付社債の増加は、新株予約権の発行によるもの、減少は新株予約権の行使によるものであります。

３．第13回新株予約権につきましては、権利行使期間の初日が到来していないものであります。

（４）剰余金の配当に関する事項

該当事項はありません。

7．税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産	（千円）
繰越欠損金	112,792
減損損失	52,821
投資有価証券評価損	15,922
賞与引当金	11,382
減価償却超過額	4,203
有給休暇引当金	3,756
地代家賃	2,085
未払費用	1,639
一括償却資産	1,249
未払事業税	1,144
その他	1,334
繰延税金資産小計	208,331
評価性引当額	△208,331
繰延税金資産合計	―

繰延税金負債	
投資有価証券	1,053
繰延税金負債合計	1,053

８．金融商品に関する注記

（１）金融商品の状況に関する事項

①金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用に関しては、短期的な預金等に限定し、また、資金調達については主に金融機関からの借入や社債発行による方針であります。また、デリバティブ取引に関しては行わない方針であります。

②金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクにつきましては、当社の与信管理規程に従い、主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日管理及び残高管理を行うとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

敷金及び保証金は、本社オフィスの賃貸借契約に伴うものであり、差入先の信用リスクに晒されておりますが、差入先の信用状況を定期的にモニタリングしております。

投資有価証券は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況を把握しております。

営業債務である買掛金、未払金は、１年以内の支払期日となっております。また、買掛金、未払金は流動性リスクに晒されておりますが、当該リスクにつきましては、月次単位での支払予定を把握する等の方法により、当該リスクを管理しております。

転換社債型新株予約権付社債は、主に運転資金、設備投資資金及び研究開発を目的とした資金調達であります。

③金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

（２）金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

	貸借対照表計上額（千円）	時価（千円）	差額（千円）
(1) 現金及び預金	2,835,812	2,835,812	―
(2) 受取手形	1,323		
(3) 売掛金	123,867		
貸倒引当金 ※	△62		
	125,127	125,127	―
(4) 投資有価証券	115	115	―
(5) 敷金及び保証金	48,958	49,036	78
資産計	3,010,013	3,010,092	78
(1) 買掛金	5,381	5,381	―
(2) 未払金	31,355	31,355	―
(3) 新株予約権付社債	2,168,901	2,243,181	74,280
負債計	2,205,638	2,279,918	74,280

※ 受取手形及び売掛金については対応している貸倒引当金を控除しております。

（注１）金融商品の時価の算定方法

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形、(3) 売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4)投資有価証券

投資有価証券の時価については、株式は取引所の価格によっております。

(5) 敷金及び保証金

敷金及び保証金の時価については、回収見込額を残存契約期間に対応する安全性の高い債券の利率で割り引いた現在価値により算定しております。

負 債

(1) 買掛金、(2) 未払金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 新株予約権付社債

新株予約権付社債の時価については、独立した第三者より入手した理論価格等を使用し合理的に時価を算定しております。

（注２）金銭債権の決算日後の償還予定額

	１年以内（千円）	１年超５年以内（千円）	５年超10年以内（千円）	10年超（千円）
現金及び預金	2,835,812	－	－	－
受取手形	1,323	－	－	－
売掛金	123,867	－	－	－
合計	2,961,002	－	－	－

（注３）新株予約権付社債の決算日後の返済予定額

	１年以内（千円）	１年超５年以内（千円）	５年超10年以内（千円）	10年超（千円）
新株予約権付社債	－	2,168,901	－	－
合計	－	2,168,901	－	－

（注４）時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

投資事業有限責任組合出資金（貸借対照表計上額73,753千円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、時価開示の対象としておりません。

９．１株当たり情報に関する注記

(1)　１株当たり純資産額　345円66銭

(2)　１株当たり当期純損失　128円33銭

１０．重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

会計監査人の監査報告書　謄本

独立監査人の監査報告書

平成29年２月17日

株式会社ＡＬＢＥＲＴ
取締役会　御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	俵　洋志	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	田中　量	印

当監査法人は、会社法第436条第２項第１号の規定に基づき、株式会社ＡＬＢＥＲＴの平成28年１月１日から平成28年12月31日までの第12期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。

計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以　上

監査役会の監査報告書　謄本

監　査　報　告　書

当監査役会は、平成28年１月１日から平成28年12月31日までの第12期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

１．監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

(1) 監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

(2) 各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、取締役、内部監査部門その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施しました。

① 取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。

② 事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。

③ 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書について検討いたしました。

２．監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。

② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人である有限責任 あずさ監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

平成29年２月24日

株式会社ＡＬＢＥＲＴ 監査役会

常勤監査役（社外監査役）　谷本　篤彦　　印

監査役　保月　英機　　印

社外監査役　江南　清司　　印

以上

株主総会参考書類

議案及び参考事項

第１号議案　取締役５名選任の件

取締役渡邊敦彦氏が、本定時株主総会終結の時をもって任期満了となります。また、経営体制のより一層の強化・充実を図るため、取締役５名の選任をお願いするものであります。取締役候補者は次のとおりであります。

候補者番号	氏　　名 （生年月日）	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する当社の株式数
1	わたなべ あつひこ 渡邊　敦彦 （昭和56年９月18日）	平成17年10月 株式会社ファインドスター入社 平成19年８月 マガシーク株式会社入社 平成20年８月 株式会社ワンスター 代表取締役就任 平成25年11月 株式会社ファインドスター 取締役就任 平成27年３月 当社取締役就任（現任） 平成27年７月 株式会社ファインドスター代表取締役就任（現任）	ー株
2	えじり たかし 江尻　隆 （昭和22年５月16日）	昭和44年４月 弁護士登録 昭和52年11月 桝田江尻法律事務所(現弁護士法人西村あさひ法律事務所)パートナー 昭和61年９月 日本弁護士連合会国際交流委員会副委員長就任 平成10年11月 株式会社有線ブロードバンドネットワークス(現株式会社USEN)監査役就任 平成15年６月 株式会社あおぞら銀行 監査役就任 平成16年６月 安藤建設株式会社（現株式会社安藤・間）監査役就任 平成18年６月 カゴメ株式会社 監査役就任 平成22年５月 三菱UFJ証券ホールディングス株式会社監査役就任 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社監査役就任 ディップ株式会社　監査役就任(現任) 平成27年６月 株式会社ウィズ・パートナーズ 社外取締役就任(現任) 平成28年３月 株式会社SBI貯蓄銀行取締役就任(現任)	ー株
3	まつむら　あつし 松村　淳 （昭和37年１月24日）	昭和61年４月 野村證券株式会社入社 平成20年１月 株式会社クワイエット・パートナーズ 代表取締役就任 平成22年９月 株式会社ウィズ・パートナーズ 代表取締役COO就任(現任) 平成24年３月 ナノキャリア株式会社 社外取締役就任(現任)	ー株

候補者番号	氏　　名 （生年月日）	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する当社の株式数
4	いいの　さとる 飯野　智 （昭和40年７月９日）	平成元年４月 株式会社日立製作所入社 平成12年３月 CSKベンチャーキャピタル株式会社入社 平成16年２月 CSKベンチャーキャピタル株式会社 取締役就任 平成22年９月 株式会社ウィズ・パートナーズ 執行役員就任 平成25年４月 株式会社ウィズ・パートナーズ 投資運用部長就任 平成25年６月 株式会社アドバンスト・メディア 社外取締役就任(現任) 平成27年３月 株式会社ウィズ・パートナーズ マネージング・ディレクター ファンド事業CIO就任(現任)	－株
5	たけだ　ひろし 竹田　浩 （昭和52年７月３日）	平成12年４月 タキヒヨー株式会社入社 平成19年８月 レッドホース株式会社入社 平成19年10月 アジアンエイト株式会社 代表執行役員CEO就任 平成21年９月 RHトラベラー株式会社 代表取締役社長就任 平成23年２月 みらいコンサルティング株式会社入社 平成27年１月 REANDA INTERNATIONAL LLKG出向 平成28年６月 株式会社ウィズ・パートナーズ　ディレクター就任(現任)	－株

選任の理由

渡邊敦彦氏

経営者として豊富な経験及び見識を当社の経営に反映していただけるものと判断し、社外取締役候補者といたしました。

江尻隆氏

法律専門家としての金融市場及び上場企業におけるコンプライアンス・ガバナンスに関しての有数の経験と実績を当社の内部管理体制に反映することで、当社の経営および企業価値の向上に資すると判断し、社外取締役候補者といたしました。

松村淳氏

戦略的な資本事業提携等における多数の経験と実績を、当社の経営に反映していただけるものと判断し、社外取締役候補者といたしました。

飯野智氏

IT・ヘルスケアなどの数々のテクノロジーベンチャーを開発・育成してきた豊富な経験及び見識を、今後の当社の事業開発やアライアンス開発に資するものと判断し、社外取締役候補者といたしました。

竹田浩氏

事業計画の策定・管理、人事組織戦略等の効率的な組織運営の実績を当社の経営に反映していただけるものと判断し、社外取締役候補者といたしました。

(注) 1．各取締役候補者と当社との間には特別の利害関係はありません。
2．渡邊敦彦氏は社外取締役候補者であり、株式会社ファインドスター代表取締役を兼務しております。また、東京証券取引所に独立役員として届け出ております。
3．渡邊敦彦氏の当社社外取締役就任期間は、本定時株主総会の終結の時をもって２年となります。
4．江尻隆氏は社外取締役候補者であり、株式会社ウィズ・パートナーズの社外取締役を兼務しております。
5．松村淳氏は社外取締役候補者であり、株式会社ウィズ・パートナーズの代表取締役を兼務しております。
6．飯野智氏は社外取締役候補者であり、式会社ウィズ・パートナーズのマネージング・ディレクターを兼務しております。
7．竹田浩氏は社外取締役候補者であり、株式会社ウィズ・パートナーズのディレクターを兼務しております。
8．株式会社ウィズ・パートナーズはウィズ・アジア・エボリューション・ファンド投資事業有限責任組合の無限責任組合員であり、株主として権利行使を行います。
同投資事業有限責任組合が所有する当社の株式数は、平成29年２月15日現在199,000株であります。
また、同投資事業有限責任組合が所有する当社の転換社債型新株予約権付社債の潜在株式数は、平成29年２月15日現在1,791,000株であります。
9．当社は、渡邊敦彦氏、江尻隆氏、松村淳氏、飯野智氏、竹田浩氏との間で、それぞれ会社法第427条第１項に基づき、会社法第423条第１項に規定される賠償責任を限定する責任限定契約を締結する予定であります。なお、当該契約に基づく賠償責任限度額は、法令の定める最低責任限度額であります。

第２号議案　定款一部変更の件

将来における事業規模の拡大等に備え、機動的かつ柔軟な資本政策の実行を可能にするため、本総会をもって現行定款第５条（発行可能株式総数）に定める当社の発行可能株式総数を5,000,000株から9,500,000株へ増加することをお願いするものであります。

なお、本議案における定款の変更案は次のとおりであります。

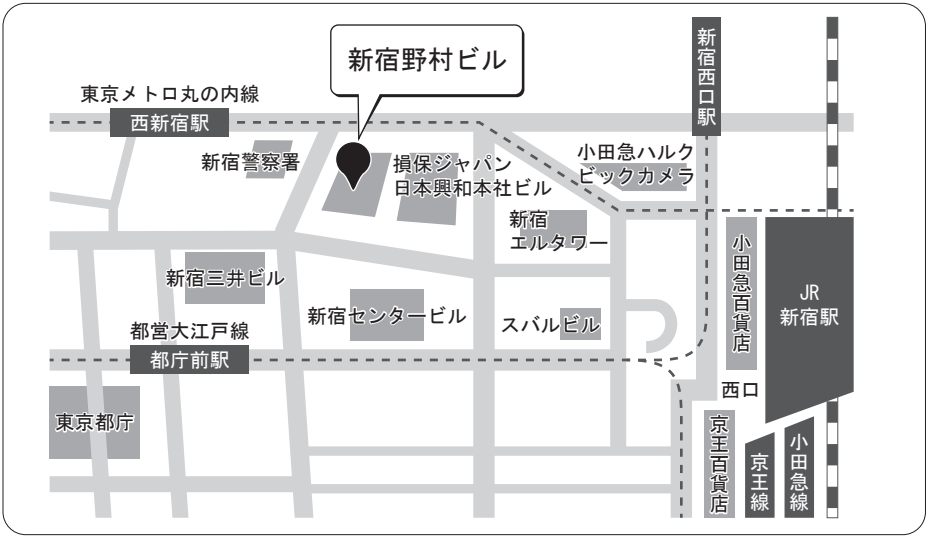
現行定款	変更案
（発行可能株式総数） 第５条　当会社の発行可能株式総数は、5,000,000株とする。	（発行可能株式総数） 第５条　当会社の発行可能株式総数は、9,500,000株とする。

以上

〈メ　モ　欄〉

株主総会会場ご案内図

東京都新宿区西新宿一丁目26番２号
新宿野村ビル48階　コンファレンスプラザ



＜会場までのご案内＞

【電車をご利用の場合】

・JR・小田急線・京王線「新宿」駅西口　徒歩７分
・東京メトロ丸の内線「西新宿」駅２番出口　徒歩４分
・都営地下鉄大江戸線「都庁前」駅B2出口　徒歩３分

【自動車をご利用の場合】

新宿野村ビル地下駐車場（地下３階～地下５階）がございます。
駐車料金 30分300円
駐車台数 330台